

令和2年度第4回石狩市浜益区地域協議会議事録

【日 時】 令和2年9月28日（月）18：30～20：20

【場 所】 浜益支所（旧議場）

【資 料】

1) 会議次第

【出席者】 9名（14名中）

役職	氏 名	出欠	役職	氏 名	出欠	役職	氏 名	出欠
会長	宮田 勉	○	委員	佐藤 晃一	○	委員	水崎 理	○
副会長	渡邊 隆之	○	委員	阿部 ゆかり	○	委員	寺山 広司	
委員	岡本 俊介		委員	木村 美幸	○	委員	門脇 弥	
委員	久慈 貞子		委員	赤間 香子	○	委員	羽立 裕子	○
委員	鳴海 翔		委員	渡邊 真奈美	○			

（ファシリテーター） NPO法人ezorock

代表 草野武史

スタッフ 水谷あゆみ、松山由実、井上優太

（株）K I T A B A

常務取締役 札幌事務所所長 窪田映子

（支 所） 畠中支所長、開発市民福祉課長（併 浜益生涯学習課長）、

宇野市民福祉課保健福祉担当課長（兼はまます保育園長、浜益国保診療所庶務課長）

地域振興課 船橋主査

（事務局） 佐々木地域振興課長、柿崎主査、小貫主任

（地域おこし協力隊） 柿岡奈々絵

（企画経済部）中西次長（厚田浜益担当）（扱 企画課長）

【傍聴者】 3名

【会議次第】

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 報告事項
 - ① 浜益オリジナルグッズの販売状況について
 - ② 体験型イベントの実施状況について
 - ③ 水産物即売会の実施結果について
- 4 協議事項
 - ① 移住・定住の取り組みについて（継続議題）
小グループに分かれて意見交換（ワールドカフェ）
- 5 その他
- 6 次回の開催日程について
- 7 閉 会

1 開 会

2 会長あいさつ

【宮田会長】

本日もお忙しいなか会議にご出席いただきありがとうございます。

去年10月、私達が第8期の地域協議会委員として就任してからちょうど一年が経過しました。

私としては、行政からの提案や諮問案件を審議する受け身の会議ではなく、自ら課題に向き合う会議へと変えて行きたいと思いながら進めてきたところですが、自分の力不足からなかなか成果を見出せないまま今日に至っており、申し訳なく感じているところです。

任期1年となりましたが、皆様のご協力をいただきながら一生懸命努めてまいりたいと考えていますので、折り返し地点にあたりあらためてよろしく申し上げます。

これまでを振り返りますと、4月の会議で水崎委員より浜益中学校の現状についてお話がありました。関連して「山村留学」そして「移住・定住」へと議論が繋がってきたところでもあります。

途中やむなく会議を欠席された方もおりますが、浜益中学校の生徒数の減少傾向は今後も好転することなく進み、このことによる地域への影響は予想以上に大きく状況は厳しく切迫しております。

このことをもう少し地域の方々にわかってほしい、また、今の教育環境を守る方策はないかを地域の方々と一緒に考えてみたい。ということで今日に至っております。

今回でこのテーマ4回目の協議となりますが、もう少し議論を深めてまいりたいと考えております。

会議の中から、例えば浜益中学校への転入者の増であるとか、農業・漁業の後継者であるとか、地域の担い手確保へ今自分達にできることは無いのか、そのきっかけを見出していけないかなと考えております。

前回の会議は初めてのグループ討議ということで慣れない方も多く、また時間がないなかでの会議でしたが、今回も NPO 法人 ezorock さんのバックアップをいただきながら、会議を進めて行きたいと思います。会議の中から地域づくりのヒントが生まれてくれることを期待しております。

一面黄金色に染まっていた田圃も好天に恵まれ一気に刈り取りが進んでおります。また、鮭漁もピーク時から見るとまだまだ低調のようですが、割と順調な水揚げが続いているようです。区民の皆さんと共に新型コロナにも負けず、豊かな美味しい秋を迎えられたことに感謝しながら早速会議を進めて参ります。今日はよろしく申し上げます。

3 報告事項

① 浜益オリジナルグッズの販売状況について

【柿岡隊員】

皆様のおかげでロゴマーク入りTシャツ等の販売枚数が1,000枚を突破しました。

～ 一同から拍手が起こる ～

本日、丁度1,000枚目をお買い求めいただいた福祉施設で働く方と代理で購入申し込みをした方の勤務先へ行き感謝の気持ちを込めて、感謝状のほか記念として限定で作成した浜益ロゴマーク入りオリジナルコースターを贈呈しました。その様子は10月1日全戸に配布予定の協力隊通信号外をご覧ください。

購入された皆様にも感謝の気持ちをお伝えしたく、協力隊通信の裏面に浜益区民の皆様へということで感謝状を印刷しております。次は2,000枚3,000枚を目指していけたらと思っています。

そのほか協力隊通信では10月22日浜益中学校修学旅行について、去年は横浜で今回はコロナの影響で函館へ行き、子供達が浜益のPRをする活動があり私も同行させていただきました。

概要ですが、子供達が自分の手で収穫したジャガイモのほか、米を200人分無料配布してきます。それと同時に浜益の良いところをPRしてきます。

余談ですが、この修学旅行でPR動画を流すため、明日有志の中学生を募りまちなかを撮影します。朝10時、総幸丸水産からスタートし区内撮影で回りますので見かけたら声をかけてください。動画ができたら皆さんにもお知らせします。

先走りになってしまいますが、10月1日から着任する新しい協力隊の紹介も掲載しています。

あらためて、グッズ1,000枚突破は皆さんのおかげです。お礼を申し上げます。

【宮田会長】

資料にもついてますが、日本農業新聞に柿岡さんの記事が掲載されています。

② 体験型イベントの実施状況について

【事務局】

浜益観光まちづくり推進協議会が実施した「第2回フットパス」と「夜の生き物観察会」についてご報告します。先日新聞でも取り上げていただきました。

7月に続き9月13日に第2回フットパスを行いました。1回目は26名で今回は7名と少数でしたが、渡辺委員の息子さんや北海道新聞の方も参加していただき、浜益温泉から摺鉢山を回る周回コース散策しました。

えん堤の方へ行き鮭の遡上を見学したり、休憩地点を設けてドリンクときむら果樹園のブドウを提供したり、温泉入浴券を配布して実施しました。

これぐらいの人数ですとスタッフも少数で済み、声も届き目も届き参加者同士の交流が深まったような気がします。次は1月にスノーシューで歩くフットパスを予定しています。

また、同日に海上保安庁のご協力をいただき、幌灯台の内覧会も実施いたしました。

去年も2時間ぐらい実施しましたが、今回は10時から15時までの開放で来場者が48名で、区民の方でも入ったことがないという方が多くいました。今後も公開できるように協議を進めます。

説明が前後しますが、9月12日に浜益観光まちづくり主催で夜の生き物観察会を実施しました。

コロナ禍で色々自粛し我慢している子供達に楽しい時間を過ごしてほしいと企画したところ、小中学生とその保護者合わせて29名の参加がありました。

支所周辺は知られていませんがコウモリが生息しており、旧議場で専門家の方からレクチャーを受けたあと、コウモリの声キャッチする機器を装備して、支所から浜益神社周辺までを探索しました。実際にとまっているコウモリを観察することはできませんでしたが、鳴き声が聞こえたり飛翔するのを目撃できた子供もいたようで、楽しんでいる姿が見受けられました。また、今後子ども達を楽しめるような活動を考えていけたらと思います。

③ 農水産物即売会の実施結果について

【事務局】

ふるさと祭りは中止になりましたが、代替イベントとして9月20日さけの即売会を実施しました。石狩秋の農水産物即売会、浜益区は「秋の味覚即売会 in 浜益」という名称で川下のイベント広場で開催されました。

このイベントは販売のみを実施、時間も11時から13時までの短い時間でしたが、JA女性部、寺山ファーム、きむら果樹園、西水流養蜂園、漁協青年部の5店舗のご協力をいただきながら農水産物の販売を行いました。

天候が心配されましたが約400名の来場があり、用意した鮭120本も販売前から行列ができるほど盛況でした。小規模のイベントではありましたが盛況に終わったことを報告します。

【宮田会長】

ちなみに、鮭の水揚げ状況についてですが、9月23日現在、令和元年の約2万匹に対し4万5千匹と昨年より多く水揚げされているということでございます。

～質問・意見なし～

4 協議事項

【宮田会長】

協議事項に移ります。

(1) 移住・定住の取り組みについて

【草野代表】

はい、前回に引き続きお手伝いさせていただきます。NPO法人Ezorockの草野ですよろしくお願ひします。

私達の説明の前にまず、ロードマップで今どのように進んでいるかを確認していただいた方がわかりやすいと思います。

【事務局】

前回の会議でお配りした地域課題解決に向けたロードマップをご覧ください。

まず移住定住に向けたテーマで具体的にどうやって進めていこうかというのを説明しました。問題分析という事で第1回・第2回協議会では川村前校長のお話を聞いたり、前回はezorockさんの「福島キッズ」の取り組みについてご紹介していただいたりして、色々イメージをお伝えしてきました。

いよいよ今回からは、グループディスカッション方式で会議を進めさせていただきます、企画提案とにかくアイデアを出してもらおうと考えております。

意見交換し浜益区の移住定住を考えるときの可能性というのを皆さんと共有していければと考えています。

もしかすると、次回もこういう形式で議論を深めていただきまして、色々な意見を拡散したうえで、その先に進むのが目標設定、具体的な行動計画等色々な意見を収束して具体化案に進めていきたいと考えております。

今日は第2段階、アイデア出し企画提案ということで限られた時間ですが、ezorockさんのコーディネートで思っていることを話していただければと思います。

【草野代表】

今までのやり方と少し変わると思いますが、色々な人とたくさんお話しをする時間を作りたいと思います。

新しいアイデアって、実はこう思っているんだけど言う機会が無かったり、心を閉じちゃうこ

ともあると思うのですが、今日は自由にしゃべっていただいて結構です。

アイデアをそのままやってみましょうとか、あなた言ったからそれやらないの？とかそういうことがあるわけではなくて、皆さん実際にいっぱいアイデア出してみても、そのあとに徐々に絞り込んでいこうという事をやってみたいと思っています。

今日は色々なことを話してみましよう！という場で話をしていきます。

まず、移住定住ということですが、柿岡さんから前振りがありました、ご紹介したい人材がおります。

「井上君」です。実は10月1日から浜益地域おこし協力隊でお世話になります。自己紹介もふまえて少しお話を聞いてもらおうかなと思います。

何が言いたいかというと、彼は移住を決めた人間の一人です。浜益に住んでみたいと思ったんですよ。という事は彼にヒントがあるんじゃないかという事です。

移住を決めた人がここにいるわけですよ。じゃあなんで井上君は浜益に住んでみたいと思ったんだろうということをお話することがヒントになるんじゃないかと思って、今日知り合いとして、地域おこし「やらかし」隊第2号だと思っていただけるといいなあと思って、柿岡先輩がいるのでやりやすいと思って、ご紹介も兼ねてお話できればと思っております。

草野 では簡単に自己紹介をお願いします。

井上 10月から地域おこし協力隊になります井上優太です。よろしくお願いします。
(一同拍手)

草野 大学は？

井上 北星学園大学で経済学部経済学科です。

草野 卒業したあとは？

井上 学生時代にゼミの仲間と畑をやる活動をした経験から、畑の大切さとか楽しさとか、あと食べるのが大好きで食に関わりたいという思いがあってJAに就職し3年間働きました。

草野 学生時代からちょっとだけ接点があったんですけれども、補足しますと、3年間JAで働いていてその間も知り合いでボランティア活動してくれていたんです。

けれども、去年の11月ぐらいですかね？「もう辞めたいんです」と僕の方に相談に来ていたんです。その頃は浜益とは全く接点がないんです。

なんで？と聞いたらもうちょっと一次産業的なことがしたいという思いがあったので、だったら1年間私の団体で仕事があったんで契約社員として働いてくださいと、その間に何か次のステップ見つかったらいいね~というように約束をしていて、1年間だけ働いてもらっていました。

その流れから浜益と接点があったのはいつぐらいからですか？

井上 6月15日きむら果樹園の作業が始まったので、そこにお手伝いに来たのが浜益を訪れた最初の日です。

草野 その前に聞いていた浜益のイメージは？

井上 ezorock で浜益チームというか浜益で活動している若者チームがあったので、そこで地域のお手伝いやお祭りに参加したりという楽しい話を聞いてなんか楽しそうなところがあるんだなあというイメージでした。

草野 その辺のことをやっているのがそこにいる松山さんです。

新聞書いたりして、彼女が最初に出入りしていてあとは前回発表した崎川ですとかが浜益で色々とお世話になっていて、そういう動きがあるのを彼は聞いてただけなんです！あってるよね？

井上 あってます。

草野 そういう意味では今から半年ぐらい前、彼は浜益何か色々な取り組みをしていて、何か動きがあるんだなあという前情報はあったんです。

けれど行く機会は全然なかった状態でした。

木村さんところに行ったときにはどういう感じだったの？

井上 さくらんぼとか果樹の剪定とかリンゴの摘果とかに関わらせていただきました。

草野 どうしてそこから協力隊に？

決して私から浜益の協力隊になってねって！言ったわけじゃないんですよ！

本当にうちの団体としても想定外だったんです。彼が「浜益の協力隊やってみたいです」って言ってきたのは、え？ほんとに？という感じだったんです。

そのエピソード教えてもらってもいいですか？

井上 6月から20日間ぐらい果樹の収穫とか剪定とかさせていただいたんですけど、札幌出身で果樹とかに関わったことが全くなくて、何もわからない中で木村さんやそこでアルバイトされている皆さんとかに作業を教えていただいたり、お話をさせていただいたり、地域の食べ物を差し入れとかで頂くことがあって、そこに凄い温かさというか浜益っていいところだなあと思って徐々に愛着見たいなものが湧いてきて、タイミングよく協力隊の募集の話を知ったので、新しいチャレンジを試みようかなと思いました

草野 ということでそういう意味では、木村さんのところなり浜益に行くきっかけというのは、たまたまだったんですよね。行ってみないかと誘い、行ってみたいということで足を運ぶようになり、僕が聞いていて印象的だなあと思ったのが、浜益で一番背が高い人間？かどうか。

井上 187センチです。

草野 大きいですよ？そしたら果樹の栽培って高いところの作業なんですよ。

羽立委員 (井上君と作業で既に知り合い) リンゴの木が非常に高いんですよ！それでね！

草野 高いから来て！って言われたときに彼の中で何が起きたんですか？

井上 今までバスケットボールぐらいしか、この長身が役にたたなかったんです。

むしろ地下鉄で頭ぶつけるとかそういう事の方が多かったんで、身長って役に立つんだって凄くうれしかったんです。

草野 控えめに言っているんですけど、僕が聞いた話では自分の身長が今まで役に立ったことがなかったのに、地域の中でこんな役割があるんだって彼としては非常にうれしかった

たんですよね。

それが一つきっかけだなあとというように聞いていて、そのあとに浜益で協力隊の募集の話をしたところ行ってもいいですか？と自分で書いて申し込みをして採用に・・・

あってますか？

井上 はい！

草野 特に誇張してなくて、私達もびっくりしたんです。

浜益に行ったことがなかったので、お手伝いしていく中で、もともと農業に興味があって一次産業に関わりたいということで興味を持っていたので、確かに、そういう事かと思って優太君がお世話になることになったと。

協力隊について僕は3つの責任があるなあと感じています。一つは彼が申し込んで頑張るという事です。自分自身が申し込んだ責任ということ。

あとは地域で受け入れていく時にある意味、若者がチャレンジするということで皆様のご協力が大事ななあと、あとは今回のケースでいくと送り出した責任があると思っていて、地域に馴染んでいくようにお手伝いしたいなあと思っています。

私からもどうぞよろしくお願いします。

(一同拍手)

草野 何をお伝えしたかったかというと、この後の話になりますが、移住・定住という国の政策であったり道であったり、移住に力を入れることは重要なんですけれども、私は10年ぐらいの間に北海道の色々なところに30人ぐらい若者を送り出している人間なんですけれども、移住定住は結果的にですよね？ということをよくお伝えしております。

どういふことかということ、井上君の話もそうなんですけれども、浜益に関わる機会を増やしていけば増やすほどファンが増えて結果的に住んでみたいなとか移住してもいいなあとというのは後からついてくるものですよね？っていうことをお伝えしています。

例えば移住しませんか？と呼びかけてポンと来る、こういう動き出しがあったのが10年ぐらい前。

地域おこし協力隊の制度が2009年からスタートしてまして、最初のころは新しいコト始まったんだと飛びつく若者がいっぱいいたんですよね。

段々それが当たり前になってきた時に、今後何が大事になってきているかというその町のこと知ってるとかあの人いる町だとか浜益ってこういう人達がいてこういう取り組みをしているとか、一回遊びに行ったなあとか、そういう関わりがあったから選ぶようになってくる。

ということで、普段からの関わりですね、浜益に関わる機会をたくさん作っていくことでファンが増えて結果的にそのあと井上君のように移住したいなと思う人が出てくるという事なんですよね。

そういう意味では移住のために何かやりましょうというよりも、浜益のファンを増やすためにはどうしたらいいのかなあとか浜益に足を運ぶ人を増やすにはどうしたらいいのかなあとという事を考えていくことが重要だと私達は考えています。

そういう意味では山村留学の話が一つあったと思いますが、浜益に行ってみる機会の創出と考えると接点が生まれる話しかないと考えています。

この後、皆さんに話ししていただくのは移住定住が結果的に増えるために浜益に色々な人達に関わってもらうためにどうしたらいいのかを皆さんで出していきたいなあと思います。

例えば子供達に浜益へ足を運んでもらうためにどうしたらいいのか？ですとか、私達みたいな若者が私は若くはないですが、若者とかが浜益に来るためにはどういふアイデアがあるかな？という事を皆さん思いつくままに今日は自由にお話ししていただく時間をこの後過ごしていけたらなあと思います。

小グループに分かれて意見交換（ワールドカフェ）

～ ルール説明 ～

4グループに分かれ、3テーマでメンバーを入れ替えながら実施

（ワールドカフェ一部抜粋）

テーマ2「浜益以外の方で浜益に関わっている人、浜益に来ている人ってどんな方がいますか？」

草野 ポイントを一つ、「来ている方」と「関わっている方」と両方書いたんですが、大きく違います。

例えば山菜採りとか釣りする方っていると思うんですが、浜益に足を運んでいるけれど関わっているかというとは実は関わってないですね？

そういう方って来ているのできっかけはあるけれど、浜益、先ほど人がいいと言っていたけれど人と触れることなく帰っている。もったいないですね？

実は浜益にいっぱい来ていますよね？人來ているのに浜益は人が魅力だと言っていたのにキャンプして釣りして帰ったら人と触れてないからもったいないくないですか？

来てはいるけど関わってない。関わるという事が一つのポイントということを念頭に置いてください。関わるとはどういうことだろう？

（まとめ）

草野 最初に佐々木課長からお話ありましたが、アイデアを広めて狭めるんです。

なのでこれからは狭めていく作業に入りますけれども、色々な町のまちづくりの取り組みをみても市や道や国がやっていくこともあります、実はお金をかけなくてもできることっていっぱいあって、むしろそういう方が結果的に都会から行く若者って心揺れたりするのは、ハードというより生々しい人との接点だったりするもんです。

こういう話をすると観光の魅力PRになりがちですがけれども、移住定住という切り口だったり、深いファンを増やしていくため何が大事かということ、そこが綺麗だから行ってみようというよりも、浜益の人とか僕達だとお祭りに行くんじゃないとお祭りで焼き

鳥を焼きに行っちゃう人を増やそうといつも言ってるんです。

お祭りに行っても実は以外と地元の人と交流がないんですよ。むしろ売店のテントの中でやっている人の方が楽しそうでお友達になれないまま帰っちゃうですよ。

そう！このまえ「人手が足りないから手伝って」って港まつり？イベントで実は僕達子供向けの剣売ってたんですよ。

売っていることが大事で気が付けば横からホタテ食べるかい？とかいただいたりするより深く関わりが増えてくるというのが、焼き鳥食べに来るよりは焼き鳥焼きに来た方が関わっているという実感がわいてくるので、そういう仕掛けがいっぱいできるというのかあと思っています。

ということで今後はこれをもとに次回繋がっていくような感じでいいですよ？

私達は井上君がお世話になりますし、私達ももっと関わっていただけるとなあと一番のファンであると思っていますので、仲間に入れていただきたいなあと、今後ともどうぞよろしくをお願いします。

(一同拍手)

【宮田会長】

今日の協議は以上にしたいと思います。今日のまとめは事務局でよろしくをお願いします。

このテーマにつきましては今後も継続して話し合っていきたいと考えております。

5 その他

(1) カフェクローバーの様子について

・羽立委員から報告

立ち寄ってみたら大変盛況だった。子供連れのお母さんから85歳のおばあちゃんまで0歳から85歳がその場所で一緒に楽しい時間を過ごしていた。すごく大事な場所だと感じた。皆さんも是非足を運んでみてください。

(2) 地域自治区振興補助金について

・柿崎主査から報告

予算要求の期限が迫っており、継続事業4件ほど予定している。
次回協議事項として提案させていただく。

(3) 川下・柏木地区の新しい集会施設建設予定等について

・佐々木地域振興課長から報告

播磨山付近に新し施設を建設することが決まった。加えて川下柏木市街地の中に普段使いの集まりの場を設けた。一方で川下地区の住民から川下地区に集会所建設の陳情書が出ている。

川下地域の方と話し合いを持ちながら進めていく。

建設予定の施設についてはパブリックコメントを実施中

(4) 郵便局の新たなサービスについて

・ 開発市民福祉課長から情報提供

郵便配達社員による貯金サービスの開始について紹介

6 次回の開催日程について

・ 第5回協議会は、予算要求の議題をメインに10月中旬を予定しているが、後日改めて連絡する。

7 閉 会

令和2年10月12日 議事録確定

石狩市浜益区地域協議会

会長



